借用スルトキハ書籍及器械係ニ備フルトコロノ備用證印簿ニ定式ノ如ク記載捺印スベキモノトス

附借用ノ書籍若クハ器械ハ使用ヲ了レバ速ニ返納スベキハ勿論毎年七月十一日ヨリ同十五日迄ニ一旦悉皆返納スベシ但シ時宜ニ由テハ臨時返納セシムル事アルベシ

第二條　生徒ハ容易ニ得難キ書籍若クハ器械ハ之ヲ借用スルヲ得又其貧者ハ願ニ依リ自餘ノ教科用書籍若クハ器械モ之ヲ借用スルヲ得但借用ノ節ハ定式ノ借用證書ニ擔當教員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ書籍及器械係ニ差出スベシ

附借用ノ書器ハ學級試業終ルノ後返納スベキモノトス

第三條　生徒修學上必須ノ參考用書器モ本掛備付ノ分ハマタ之ヲ借用スル事ヲ得

第四條　凡ソ書籍若クハ器械ヲ借用スル者ハ之ヲ丁寧ニ使用スベシ若シ之ヲ毀損汚染若クハ亡失スルトキハ其現物又ハ代價ヲ以テ辨償セシムベシ

第五條　借用ノ書器ヲサラニ相貸借スルヲ許サス

第六條　借用ノ書器ハ掛長ノ特許ヲ得ルニ非ンバ之ヲ外ニ携出スルヲ得ズ

第八章　罰則

第一條　凡ソ生徒規則告諭等ニ違背スル者ハ之ヲ罰ス

第二條　罰科ハ拘止、退學ノ二種トス

第三條　拘止ハ課業後二時間以下教場ニ止留スルモノト爲シ退學ハ本掛傳習生ヲ除名シ且相當ノ處分ヲ爲スモノトス

第四條　過失錯誤ニ出ル科モ其事由ヲ酌量シテ其處分ヲ爲スベシ

第五條　不品行怠惰放佚ノ行狀アル者ハ速ニ退學ヲ命スベシ

第六條　數度說諭シテ尚ホ改悔セザル者或ハ成業ノ見込ナキモノハ退學ヲ命スベシ

第七條　故意ニ書器ヲ汚染破毀スル者ハ相當ノ罰ニ處スベシ

第八條　出入進退禮節ヲ失スル者ハ之ヲ罰ス

〔手書き〕

（『音監經伺書類』明治十七年上）

（六）各府県派出音楽伝習生の募集

十四年の音楽取調掛報告で伊澤修二が述べていたように彼の構想の中には、小学校の唱歌教員専修課程を設ける案も練り上げられていた。伊澤は全国の公立学校における唱歌授業の一刻も早い実施のためには、すでに小学校の教員で唱歌授業を希望する者を養成する方法が近道であると考えた。明治十四年十二月、開所以来の音楽取調べの実績をふまえて、各府県に希望者の選出を呼びかける伺い文を本省普通学務局へ提出した。伺い文は音楽取調掛監事、神津専三郎が記述している。

當掛設立以降音樂上ノ事項段々取調候処音樂ノ研究ハ理論ト技術トヲ併要シ事頗ル重件ニ屬スト雖從来所得ノ成果ニ依リ音律ニ彼我ノ別無キハ既ニ判明相成我固有ノ樂器ヲ以テスルモ彼西洋樂器ヲ以テスルモ其音律ハ殆ド同一ニ帰スルハ實事ニ於テ證明スルヲ得ル所ニ有之又近日ニ至リ彼國數千年前ニ屬スル希臘ノ古樂ト今日我邦ノ雅樂ト全ク相協フ者アルヲ發見致候是ニ由テ之ヲ觀ルトキハ音樂ノ古今東西ヲ問ハズ皆一途ニ帰スルハ蓋シ人ノ性情ノ自然ニ原由スルノ明證ト被存候

又律呂ノ旋法ニ至リテハ我邦及西洋ニ於テモ其種類少シトセズ然リ而シテ音樂ノ眞ニ喜怒愛樂哀悪欲等ノ諸情ヲ感セシムル所以ノモノハ與カリテ律呂ノ旋法ニ在リ故ニ其旋法ノ正シキモノハ聞者ヲシテ嚴肅ナラシメ其亂ルヽモノハ聽者ヲシテ放佚ナラシム是ヲ以テ律呂ノ旋法ハ教育上至大ノ影響ヲ與フベキ事必然ニシテ音樂取調上殊ニ思考ヲ要セシ者ニ有之候然ルニ之ヲ理論ニ考フルモ之ヲ實際ニ徵スルモ能ク教育ノ理ニ適シ學校教科ニ施用シテ其可ナルモノハ現今ノ長短両音階ニ如クモノ無之就中長音階ハ音程純正ニシテ旋律快活ナルヲ以テ殊ニ児童ノ教育ニ適シ候モノニ有之候

前陳ノ如ク音階ノ種類及律呂ノ旋法等彼我酌量ノ上唱歌掛図及唱歌集等編輯刊行致シ既ニ數千部印刷ノ効ヲ竣ヘ候ニ付不日裁可ヲ得テ世上ニ頒布可致ト被存候尤モ此等ハ上述ノ理ヲ研究シ教育ノ主義ニ基キ特ニ學校教科ニ適シ候モノヲ撰定致候儀ニ有之其他次編ノ如キモ日々唱歌撰定罷在候得バ稿成ルニ任セ陸續公刊ノ手順ニ有之候

音樂傳習ノ事業ニ至リテハ當掛創立以降養成罷在候傳習人等既ニ大略所期ノ業程ヲ履踐シ来ルニ月ヲ以テ卒業ノ見込ニ有之候得バ該二月以後ハ右卒業生ヲ傳習助教ニ採用相成候上ハ教員欠乏ノ患ナク益々此事業ヲ擴充スルノ便ヲ得可申候

楽器ノ儀モ段々苦考致シ我邦在来ノ琴胡弓ヲ學校用唱歌ニ用ヰルノ方法ヲ設ケ候儀ニ有之且豫テ試製ニ着手罷在候風琴（オルガン）モ殆ド落成ニ至リ候得バ自今洋琴ノ如キ大價ノ外入楽器ハ唱歌ニ用ヒズシテ聊カ差支ナキ儀ニ有之加之右業ノ如キ内國所造ノ楽器ヲ唱歌ニ用ヒ候エハ全國一般ニ於テ楽器購求ノ方法モ意ノ如クニ相成傳習事業モ速成致シ候得バ唱歌ヲ普及スルニ當リ非常ノ便宜ヲ得候儀ニ有之候

音楽取調ノ事業既ニ上述ノ地歩ニ進ミ事漸ク緒ニ就キ基礎漸ク相立候ニ付此際一層規模ヲ更張シ唱歌ヲ全國ニ普及スルノ順序ニ為相運度依テ来ル二月ヲ期シ唱歌傳習人ヲ各府縣ニ募リ學期凡ソ二ケ年以内ニシテ卒業ノ見込ヲ以テ專ラ唱歌ヲ傳習セシメ以テ此學科ヲ全國ニ布クノ資料ヲ養成シ益々當掛設立ノ隆旨ニ添ヘン事冀望ニ堪ヘザル所ニ有之候

尤モ右費用ノ如キハ當掛豫定額中ヨリ支辨シ且其規制細則ノ如キハ本按裁可ノ上詳細取調更ニ可伺出条至急御裁可相成度候也

〔手書き〕（『音監經伺書類』明治十五年上）

普通學務局長辻新次の意見〔朱書〕

音樂ノ教育上ニ須要ナルコト固ヨリ論ヲ待タサレハ其取調事業ノ緒ニ就キ其基礎ノ立チタルハ誠ニ賀スヘク又一層規模ヲ更張シ漸ク唱歌ヲ全國ニ普及セシムルノ順序ヲ立ツルハ誠ニ願ハシキ事ニ候ヘトモ今直チニ之レカ傳習人ヲ各府縣ニ募ラルヽ儀ハ暫ク御見合セ相成度歟ニ存候何ントナレハ今熟々各地方現今教育ノ實況ヲ按スルニ小學校ニ具備スヘキ學科中ニ於ルモ図画生理博物物理化学等ノ教員ハ勿論讀書等ノ教員ニ至リテモ尚適當ノ者ヲ得ルコト甚タ難ク一方ニ於テ教則等ハ漸クニ改良スルモ他ノ一方ニ於テハ之ヲ實行スルノ人殆ント闕如セルニ苦ム程ノ有様ニ候ヘハ若シ本省ニ於ル少シニテモ教員タルヘキ者ヲ養成スルコトノ叶フヘク亦各府縣ニ於テ一人ニテモ傳習生ヲ出京セシムルコトノ成ルヘケレハ先以テ小學校學科中最緊切急要ナルモノヽ教員ヲ養成スルコト順序ノ當ヲ得タルモノナ

ラン歟因テ今日ノ処本省ニ於テ各府縣ノ傳習生ヲ教導スルコト相叶フ儀ナレハ先唱歌ノ傳習生ハ閣キ小學全科ノ傳習生社募集相成度候

（『音監經伺書類』明治十五年上）

各府県の現状では、唱歌よりも小学全科の教員養成の方が急務ではないかという普通学務局長辻新次の意見にしたがって、十五年一月十三日付、同掛の伝習生募集案に唱歌教員の項目を設けたい旨（神津専三郎の文案）再度伺い文を提出した。ところが普通学務局ではしばらく検討の必要があるという理由で、この項目の削除を音楽取調掛に命じた。

十五年一月十三日

音樂取調掛監事

神津專三郎

去十二月中號外ヲ以テ唱歌傳習人ヲ各府縣ニ募リ候様相成度旨裁可ヲ仰キ候処別紙朱書ノ通決裁相成依テ審按候処小學全科教員ノ如キハ別ニ傳習生ヲ募集不致候共官立両師範学校ヲ始メ各府縣立諸師範学校等ニ於テ孳々養成相成候儀ニテ其卒業生陸續輩出致候得者巧拙適否ハ兎モ角モ先ヅ目下非常ノ欠乏ヲ患ヘ実際授業ヲ廃シ居リ候如キ場合ニモ無之様相心得候尤モ此議ハ先以相見合候様御決裁相成居候得者喋々ノ贅論ハ差置キ可申候然ルニ唱歌教員ニ至リテハ全ク創造ノ事ニ有之候得者巧拙適否ハ措テ問ハザルモ其需メニ應ズベキ者断ジテ無之真ノ欠乏ト申スベキ有様ニ有之候且又唱歌教習ハ経久ノ時ヲ以テ始メテ成熟致スベキ者ニ有之候得者少クトモ二ケ年内外ノ歳月ヲ要スベキ見込ニ有之故ニ今日ヨリ此教員ヲ養成候共二三ケ年ノ後ニ至ラザレバ其用ニ供シ難キ次第ニ付現実入用ノ時ニ臨ミ驟カニ之ヲ養成スルトモ決シテ其用ヲ辨ゼザル儀ト被存候又各府縣ノ実況ニ付考按スルモ客歳二月唱歌傳習生募集ノ際諸府縣ヨリ募リニ應ゼントセシ者少シトセズ然レドモ遠國地方ニ於テ自然其手順ノ後ルヽヨリ募集人員既ニ満ルヲ以テ乍遺憾之ヲ許ス事能ハザリシ例モ之アリ尚去秋已来新潟千葉其他諸縣及ビ京府等ヨリハ唱歌教員ヲ要スルノ件ニ係リ既ニ陸續内照會有之候是ニ由テ之ヲ観ルニ唱歌教員ノ養成ハ各府縣ニ於テモ相望ミ居リ候儀ト推察致候乍併先回御決裁ノ趣モ有之候得者各府縣ニ照會シテ傳習人ヲ相募候儀ハ先以姑ク相見合セ更ニ別紙ノ通新聞紙ヲ以テ廣告シ廣ク有志ノ者ヲ江湖ニ募リ以テ唱歌ヲ傳習セシメ聯カ唱歌教員ノ需メニ備ヘ異日唱歌ヲ各府縣ニ普及スルノ際該科教員欠乏ノ困厄ニ陥ラザル様致度候尤モ其費用ノ如キハ本掛豫定額中ニテ支辨可致候依テ別紙廣告按相添差出候条至急御裁可相成度候也

廣告按

来ル二月音樂傳習生三十六名ヲ限リ試験ノ上入學ヲ許ス志願ノ者ハ左ノ諸項相心得来ル二月十五日迄ニ本掛ヘ申シ出ヅベシ

但シ各府縣ニ於テ右傳習生差出度向ハ直チニ本掛ヘ照會アルベシ

一、男女ヲ論ゼズ年齢十五年以上三十年以下ノ者ニシテ卒業ノ上ハ唱歌教員タルベキ見込ノ者ニ限ルベシ

一、品行方正ニシテ通常ノ文筆ニ差支ナキ者タルベシ

但シ俗曲又ハ雅樂等ニ習熟スル者ナルハ最モ善シトス

一、修業年限ハ凡ソ二ケ年ト定メ卒業ニ至リ唱歌教員タルベキ免状ヲ附與スベシ

一、別ニ授業料ヲ拂フヲ要セズト雖モ學資等ハ一切自辨タルベシ

右ノ外尚詳細ノ規則等承知致度向ハ直チニ本掛ニ照會スベシ

本郷元冨士町文部省用地内

明治十五年一月　　文部省音樂取調掛

普通學務局長辻新次の意見〔朱書〕

本按ノ旨趣ヲ要スルニ小学全科ノ教員ハ目下非常ノ欠乏ヲ患フルノ場合ニモ無之候ヘトモ唱歌教員ノ如キニ至リテハ全ク創始ノ事ニ有之巧拙適否ハ措テ問ハス其需メニ應スヘキ者斷シテ無之真ノ欠乏ト申スヘキ有様ニ付音樂取調掛ニ於テ今ヨリ音樂志願ノ者ヲ募集シ之ヲ傳習シテ以テ廣ク唱歌教員ノ需用ニ應セントスル儀ニ可有之候處抑該取調掛ノ儀ハ即今専ラ取調中ニシテ未タ全ク調了シタリト云フヘカラス然ルニ今直ニ教員養成ニ着手スルハ少シク早計ノ處置ニハアラサル乎且又該掛ニ於テ右取調既ニ十分ニシテ之ヲ各学校ニ於テ教授セシムルヲ得ルノ日ニ至ラハ先其教授ヲ師範学校ニ移シテ之ヲ師範生徒ニ授ケ漸ヲ以テ各地方ヘ普及セシメラレ候事順序當ヲ得タル儀ト存候尤從来迚モ取調ノ傍ヲ試ミノ為メ傳習人ヲ置キ唱歌傳習相成居候儀ニ付今般モ之レト同一ノ者ヲ募集シ唱歌傳習相成候テ可然儀ニ候ヘハ旁殊更ニ右教員ト為ルヘキ者ヲ募集候儀ハ断然御見合セ相成度就テハ廣告文第一項卒業ノ上ハ唱歌教員タルヘキ云々ノ件ト第三項唱歌教員タルヘキ免状云々ノ件ハ削除相成度且其募集人員モ少シク減セラレ度候

追テ本文傳習人諸規則等ノ儀ハ更ニ當局ヘ合議相成候様致度候

〔手書き〕（『音監經伺書類』明治十五年上）

縣案中の各府県派出伝習生案は、明治十七年四月実現の運びとなる。音楽取調掛監事の署名で次のような伺い文とともに、各府県長官宛「府縣派出音樂習生募集案」を提出した。

各府縣ニ於テ追々音樂唱歌施設之見込ヲ以テ從来該教員聘用之儀本掛ヘ頼議ノ向モ不尠幷ニ又該施設ノ計畫ニ関シ傳習人ヲ派出シ音樂傳習ヲ受度旨依頼ノ為照會致来候向モ陸續有之然ル処右教員應聘之者ハ固ヨリ未タ無之候処傳習人派出依頼ノ義モ時々區々ニ相成自然是ガ為ニ一人一級ヲ設ケザルヲ得ザル如キ非常ノ不都合ヲ釀成候ヨリ其依頼ニ應シ難キ場合モ有之到底此儘ニテハ各府縣ニ於テモ該科施設準備モ難相立儀ニ有之候就而者今般別紙甲按ヲ以テ各府縣ヘ照會相成同乙按ヲ以テ官報及府下二三ノ新聞ヘ廣告相成大凡二十五名ヲ限リ傳習生募集相成候様致度尤モ右関係ノ経費ハ素ヨリ少額ニ候得者本掛豫定額中ヨリ支弁可致見込ニ有之候条此段至急仰裁可候也

甲按

文部省音樂取調掛長

文部省書記官伊澤修二

各府縣長官宛

兼テ諸府縣ニ於テ音樂唱歌施設之見込ヲ以テ音樂傳習人派出依頼越候向有之處其照會區々相成取扱上不都合不尠ニ付来九月右入學許可致見込ニ候間貴府縣ニ於テモ別記之條項参覧之上右派出之有無共来六月三十日限御申越有之度此段及御照會候也

別記

第一　學識　　普通ノ教育ヲ受ケタル者
第二　年齢　　十六年以上三十年以下ノ男若クハ女
第三　技藝　　雅樂又ハ俗曲ヲ心得タル者ハ更ニヨシ
第四　學習期限　壱ケ年以上滞在見込ノ者
以上

乙按

来九月音樂傳習生二十五名ヲ限リ試驗ノ上入學ヲ許ス因テ諸府縣ニ於テ右傳習生派出致度向ハ左ノ諸項相心得来ル六月三十日迄ニ本掛ヘ申出ベシ

第一　學識　　普通ノ教育ヲ受ケタル者
第二　年齢　　十六年以上三十年以下ノ男若クハ女
第三　技藝　　雅樂又ハ俗曲ヲ心得タル者ハ更ニヨシ
第四　學習期限　壱ケ年以上滞在見込ノ者

右之外更ニ詳細規則等承知致度向ハ直チニ本掛ヘ照會アルヘシ

明治十七年四月

本郷元冨士町文部省用地内
文部省音樂取調掛〔手書き〕
（『音監經伺書類』明治十七年）

この案文は問題なく裁可され、これによって応募した十四府県派遣生は、十七年九月九日に入学試験を受けることとなった。試験科目は数学、作文、唱歌、読書、既修楽器など。この結果女子二名が及第した。しかし年々応募する派遣生が増えるに従って合格者も多くなり、彼らは一年間の養成ののちそれぞれ所属府県に帰り、唱歌教員として活躍した。この制度は東京音楽学校の師範科を導く母体となったものと思われる。

（七）音楽取調掛における音楽教育の経過報告　明治十七年、報告者　伊澤修二

音樂唱歌傳習ノ事

音樂取調ノ事業ハ啻ニ理論上ニ之ヲ討究シ若シクハ之ヲ言語詞章ノ問ニ求ムベカラズ特ニ実際演奏上ニ就テ之ガ討究ヲ要スル事甚タ多シ故ニ本掛所撰ノ歌曲ノ如キモ実際試施校訂スルニ非ザレバ其可否得失ヲ察スル能ハズ且教師傭入期限モ僅々数年ニ属スレバタトヒ其尽力非常ニ出ツルモ限リアル年月ヲ以テ限リナキ大業ニ就キ絶大ノ効績ヲ奏スルハ殆ド望ムベカラザルニ近シ因テ従来我國ノ音楽ニ習熟スル者ヲシテ其術ヲ傳ヘシメバ將来我邦音楽ノ上進ヲ計ルノ第一歩タルベキヲ以テ明治十三年九月本掛ニ於テ音樂傳習人三十名ヲ募ル此募ニ應ジ能ク及第スル者二十二人アリ則其十月之ニ入學許可ヲ與フ同十四年二月更ニ之ヲ募リ試驗ヲ経能ク試格ニ適スル者十二人ナリ乃チ之ニ傳習假許可ヲ與フ爾後其勤學効アルヲ以テ本許可ヲ與ヘタリ後更ニ諸府縣ヨリ召募ニ應ゼントスル者マタ少カラズト雖トモ其人員既ニ満ルヲ以テ之ヲ許スヲ得ザリキ因テ同十五年二月マタ之ヲ募ントセシニ裁可延遷ニ及ビ加フルニ本年ハ教師メーソン氏賜暇帰國掛長學事巡視出張等ノ事故ヲ以テ之ヲ延ス但シ本年九月諸府縣派出師範學科取調員拾七名通學ヲ許シ外ニ東京女子師範學校女教員及京都府派出唱歌傳習員等ニ入學ヲ許ス同十六年二月傳習生三十名ヲ募ル其試格ニ適スル者十二名ニ入學ヲ許ス尋テ更ニ埼玉、福島、滋賀三縣派出唱歌傳習生ニ入學ヲ許ス傳習生中本掛ニ登用シタル者ハ明治十四年二月四人同九月一人同十五年三月二人十二月一人アリ或ハ助教員ト為シ或ハ助手員ト為ス同十六年四月長野縣下上田